



有松まちづくりの会役員会 (7月24日)

有松まちづくりの会の主活動の1つ、町並みの保存・維持のため、本年度も町並み保存地区にお住まいの方へ、修理修景等の工事についての届出の必要性のパンフレットを全戸に配布することとしました。また、有松についての勉強会を秋に、研修会を秋以降の年度内に開催することが提案されました。10月の全国町並みゼミ小樽大会には久野副会長等が出席すると報告がありました。



NPO法人コンソーシアム有松 総会開催 (6月27日)

コロナ禍で開催できなかった通常総会が、4年ぶりに竹田家3番蔵で開催されました。

中村理事長のにこやかな挨拶の後、本年度の活動「ナゴヤ・ランス(仏) 姉妹都市を祝うin有松」「親子で学べる有松絞伝統文化教室」「観光再始動事業」などへの取り組みが提案され、満場一致で承認されました。総会終了後は、庄九郎カフェで懇親会も行われ、参加者は久しぶりの歓談を楽しんでいました。



総会で挨拶する中村理事長(左)

根尾文彦氏「NHK東海ドまんなか！」に出演 (7月7日)

「変わる東海の観光 地域の宝をどう生かす」のテーマの回にまちづくりの会の副会長でもある根尾氏(左)が出演された。有松でも講演されたインバウンド観光専門家お二人(右)との対談で、外国人観光客を増やすには「当たり前の日常」を楽しんでもらうこと(例えば食べ物もある自販機は驚かれる)や、外国の人に分かりやすく興味を持ってもらえる「情報」提供が大事。



続いてリピーターを増やすには「気づいてみがかく！」ことが大事と根尾氏。地元の魅力を、いかに来られた方に気づいていただき楽しんでいただくのか、地元の工夫が必要である、と。一例として番組では下呂の「筋骨めぐり」を紹介(狭い小路歩きで銭湯跡や骨董屋を訪ねる)。参加者が「ガイドさん付きで回るので、見方が変わる」と。有松にも参考になる内容でした。

特集 津島社

現在有松の津島社は天満社下の広場の一角に鎮座しています。もともと天王坂沿いにあったものを仮移設されたものです。社殿の傷みが激しくなってきたこともあり、今回新調されました。

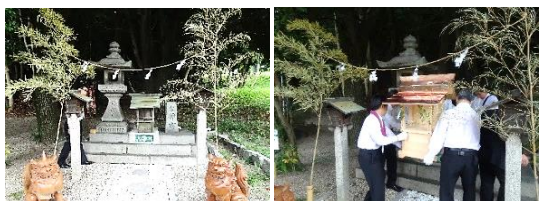
この機会に、津島社について知見を深めたいと思います。

還暦会「六三四会」より 社殿奉納される（7月8日）

加藤博紀さんの発案で、「六三四会」（1963,4年生まれの方）より津島社の社殿一宇が文嶺講に奉納されました。29名の賛同をいただき、8日は14名の方が出席されました。

当日は降雨が予想されたため、予定を早めて10時から成海神社の亀垣禰宜よりお祓いを受けました。その後、数名で社殿を天満社から下の広場へ運び、旧社殿に替え設置しました。

旧社殿は来年の左義長で燃やされます。



旧社殿と常夜灯

新社殿の設置



天満社でのお祓いの様子



参拝を終えた「六三四会」の皆さん

津島祭迎え（7月15日）

津島祭迎えは例年7月15日と決まっております、その日までに津島神社(津島市)からお札をいただけてきます。(写真右)

神様は光を嫌いますので、お迎えは夕刻。7時に文嶺講総代たちが中町年行司に集まり、半纏を着用し火を灯した提灯を持って天満社に向かいます。

下の広場の津島社には笹竹が2本立てられ、注連縄が張り渡してあります。成海神社から神主(亀垣禰宜)が到着すると、案の上に神饌や御神酒とともにお札も供えます。神主によるお祓いの後、神主と総代長の二人でお札を社の中に納めます。その後、祝詞奏上、総代長以下参拝が続きます。今年は「六三四会」の皆さん6名も加わり約30分で神事は終了しました。



お札

天満社に向かう総代たち

社前に並べられた
提灯



お祓いを受ける皆さん

豆知識 ① この時期に津島祭を行うのは、10月の秋季大祭を無事に迎えるためだそうです。

② 津島社の西側に建つ2基の常夜灯は、江戸時代東海道と天王坂のかどの東側にあったものです。区画整理前には、天王坂の途中の西側にありました。

絞りまつりでの展示会紹介①

日本の絞り

現在の日本の絞り染めの主なものに、古い時代からの歴史を持つ絹に絞った「京鹿の子」と、木綿に絞った「有松・鳴海絞り」がある。有松・鳴海では、江戸時代初期の名古屋築城時に絞りが伝わったことから産地として飛躍的に発展していった。

この「豊後絞り」についての展示パネルを紹介したい。

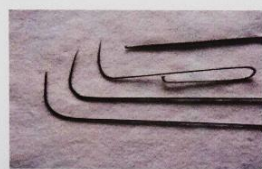
● 豊後絞りとは

豊後絞りは木綿に藍染めした庶民の鹿の子絞り、といったところである。

鎌倉時代に相模の国から下向して地頭となった「三浦の介」の一族が約200年の間に三浦木綿または豊後木綿を生産し、この木綿を括った藍染の絞りを「豊後絞り」別名「三浦絞り」といった。

有松・鳴海では豊後絞りは、豊後から伝わったから「豊後」あるいは「三浦絞り」と呼び、秋田では同じ絞りを「鳴海」と、伝えた地の名前で呼ばれ広がっていった。豊後ではこの絞りを、豆を入れて括っていたから「豆絞り」と呼んだ。江戸時代からこの絞りには様々な呼称があり、如何にポピュラーな絞りであったかが分かる。

1853年の「守貞漫稿」では、貝のむきみを皿に盛ったように見えるから「むきみ絞り」と言い、鳥が羽を上げたように見えるから



各地の三浦絞りの針
上から(大分)(韓国)(有松・鳴海)

「ひよこ絞り」「カラス絞り」とか呼ばれていた。

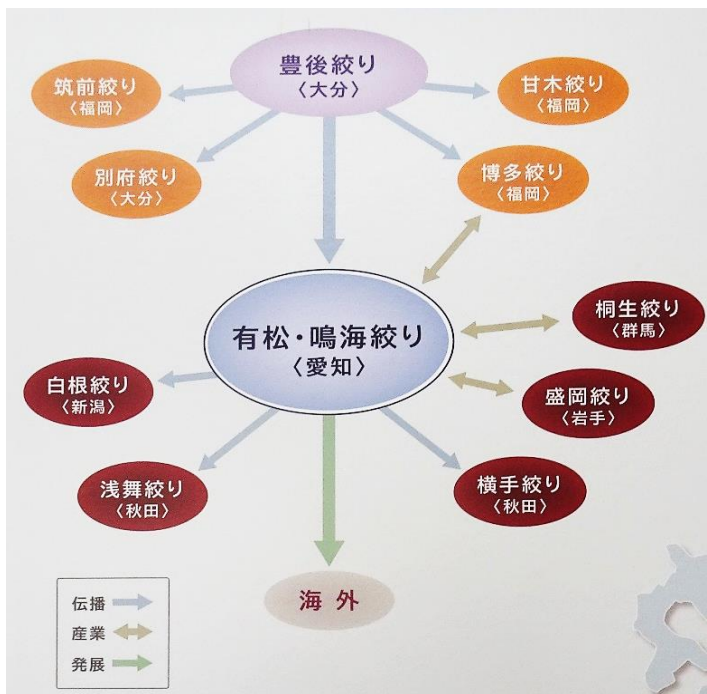
まだ国産木綿が大変貴重で珍しかった頃の1600年前後から、豊後絞りは全国に先駆けて産物化し、1638年の全国物産誌『毛吹草』に豊後の絞り木綿が初見される。豊後は木綿絞りの発祥地だったのである。

1803年の「豊後国志」はその産地を「高田郷門田村」と明記し、これは現在の「大分市鶴崎皆春」にあたる。当時、木綿絞りは珍重され九州の海の東玄関、鶴崎港から京、大阪へ出かける人々によって全国に三浦木綿または豊後木綿を生産し、広まっていった。

また西鶴の「好色二代男」(1684年)には「豊後絞りの脇あけて・・・」と言う表現もあり、浮世絵では三代豊国の「鳴海」に豊後絞りを括る嘉永年間の「豊後絞り染め」の文字の書かれた図も残されている。江戸時代を通じて豊後絞りは、多くの産物誌や紀行文に記されていたが、1879(明治12年)の「府県産物往来」を最後に大分県での豊後絞りの呼称は消え、これ以降「別府温泉絞り」へと繋がる。



絞会館2階での展示会風景



有松・鳴海絞りの伝播
← 三浦絞り



数字で見る 第39回有松絞りまつり

天候にも恵まれ、6月3日4日両日で**8万人**の方が絞りまつりに来てくださいました。昼前後には歩行者天国並みの込み具合でした。

館内見学のできる岡家住宅にも**約4000人超**が見学に見えました。普段は土間からのみの見学ですが、"浴衣展"見学のため室内に上がることもできたためでしょうか。

近年の絞り体験人気も数字で裏付けられます。祇園寺境内での雪花絞り体験は、予想の倍以上の**750人程**が取り組まれました。また絞りLab前広場での手蜘蛛絞りにも同数の参加がありました。他方、早恒染色での日傘制作というワンランク上の体験教室では**40人以上**の申込。本格的な体験を求める人が増えてきているようです。

有松のまちは着物が似合うからでしょうか、浴衣姿の方も少なくありません。浴衣着付けコーナーでレンタルされた方は**80人以上**と大盛況でした。

絞り商品購入や町並み見学だけでなく山車の見学を楽しみに訪れた方も多いようです。3輦ともからくり実演（日に3～4回）の時には、山車の周りは人だかり。特に西町 神功皇后車は造られて150年。記念の御朱印帳は、初日にあっという間に**品切れ**となりました。

以上、数字の上でも絞りまつりが大盛況のうちに終えたことが分かりました。また、今後の方向性についても垣間見ることができました。

最後に、コロナ禍前に人出が戻るということは、外国人観光客の増加も意味しています。来年更にパワーアップした絞りまつりにするためには、パンフレットの英語版を用意するなど様々な工夫が求められています。

催事・行事予定

- 8月11日(金・祝) 10:00～ 有松ゆかたまつり 有松東海道一円・イオンタウン有松
17:00～ 宵まつり 盆おどり ありまつ公園 ↑ 同実行委員会
- 8月20日(日) 17:00 サマーナイト JAZZライブ 寿限無茶屋 有松町家ライブ
- 8月21日(月) 18:00 有松町並み相談会 有松コミセン
- 8月27日(日) 07:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会
- 8月28日(月) 18:00 有松まちづくりの会役員会 有松コミセン 中止

発行者 中濱 豊(有松まちづくりの会 会長)

編集者 加藤明美(有松まちづくりの会 広報部長)

pegasusb@mc.ccnw.ne.jp

有松まちづくりの会は、ホームページを公開しています。



絞りまつりの賑い(西町)



雪花絞り体験



絞りまつりパンフ



神功皇后車御朱印の頒布

